

令和5年度教育事業 ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、
野外活動等の指導・支援ができるボランティア
及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和5年6月3日（土）～4日（日）1泊2日
- 3 対象者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参加者 宿 泊：37人（高校生31人、大学生6人）申し込み：41人
日帰り：2人（社会人2人）申し込み：3人
- 6 指導者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
株式会社大塚製薬工場 永瀬 努 氏
垂水市消防署救急隊員4人
国立大隅青少年自然の家職員4人、法人ボランティア2人



7 日 程

6月3日（土）	6月4日（日）
9:00 受付・開講式	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義「青少年教育施設における体験活動」	7:30 朝食（レストラン）
11:40 講義「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習「自然体験活動の安全管理」 （普通救命講習Ⅰ）
12:40 昼食（弁当）	12:00 昼食（弁当）
13:30 講義「ボランティア活動の意義」	13:00 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:10 講義「熱中症予防・対策講義」	15:10 閉講式・解散
16:00 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）	
20:30 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 最初の講義で、アイスブレイクを行い2日間楽しく参加できるように工夫した。
- 各講義の中で、座学の時間が長くなりすぎないように、途中にアクティビティなどを取り入れた。

9 参加者の感想

- 自然や社会と関わる力を得ることができた。
- 交流を深めることができて楽しかった。
- 最初は不安だったが、交流等を通し、良い時間を過ごせた。
- 普段体験することのできない活動をしたり、話を聞いたりできた。

10 成果と課題

- 事業終了後、法人ボランティアとして31名の登録があった。
- 学校、年齢、性別関係なく、交流を深めて活動に取り組んでいる姿が見られた。

